資料１

令和７年度第２回森町創生総合戦略策定推進委員会に係る意見対応表

No	意見等	対応課	回　答
1	玉川大学の学生と 3 年間料理交流を続けているが、その後の展開が見えない。交流の目的を明確にしないと、継続性に疑問が残る。	社会教育課	玉川大学が実施している北海道プロジェクトは、地域創生プロジェクトとして行われており、地元の人との交流、地元の小学生たちとの交流を通じながら、地域と連携することで、地域課題の解決や問題点の解決、地域活性化に資することを目的としている。その中の交流のひとつとしての、「地元メシ体験」となっており、直ちに効果が現れることはないと考えるが、地域住民と地元に伝わる家庭料理を作りながら交流を通じて、学生の視点による町の食文化の発信に繋がっていく事や、家庭での継承が難しくなっている「いかめし」作り等を体験することで、食文化の次世代継承になると考えている。
2	デジタル観光パンフレット制作事業について町民への情報提供も目的とするならば、ホームページ以外からのアクセス経路を増やすべきではないか。ポスター掲示や、飲食店等への QR コードカードの配布を強化し、単なる紙の削減ではなくどう活用していくか検討すべき。 調書の中に記載のある、ちゃっぷ林館の利用数等も考えると、そういった利用数の多いところに置いてもらうだとか、町内に出店会や飲食店会があるのでそういうところと協力して置けるお店を増やせたらもっと広がるのではないか。	商工労働観光課	アクセス経路を増やす取組として、役場、道の駅、町内外の一部宿泊施設、町外観光施設などへポスターの掲示やＱＲコード付のカードの配布をお願いしてきております。 引き続き、町内外の利用者の多く集まる施設などへポスター掲示及びＱＲコードの配布をお願いしていきます。
3	デジタル観光パンフレットへの、アクセス数の町内と町外の内訳はわかるか。	商工労働観光課	令和８年１月１６日～令和８年３月３１日　１，２６６件 町内外の閲覧数の内訳は不明ですが、国別及び都道府県別の詳細は、別添のとおりとなります。

No	意見等	対応可	回　答
4	KPI の管理について、UIJ ターンや介護関係の事業など、進捗が著しく悪い事業は、要因分析を行った上で施策自体を見直すべき。また、既に目標達成が近いものは目標値の引き上げを検討すべき。出来レースのように累計で実績が伸びていく事業については目標ではないと思うので検討すべき。民間目線では、20%未満の進捗に留まる事業は、継続の是非を含めた改善検討が必須である。	企画振興課	各担当部局へはこういった意見があった旨共有し目標の再検討についても協議していく。行政には「結果が出なくても予算化し続ける」という悪弊がある。今後は行革も行われることから「3 年間で KPI を達成できない場合事業を廃止する」といった判断についても予算部局と協議していきたい。
5	道の駅リニューアルについて、「せっかく作ったが失敗した」という事態は避けなければならない。観光客だけでなく、町民も利用したくなるような商品展開や、民間業者との連携による黒字化シミュレーションを徹底すべきだ。 中身の設計段階から商工会議所や地元業者と密に連携し、知見を活用してほしい。	商工労働観光課	令和 6 年度よりリニューアルに向けて検討してきましたが、令和 8 年度より行財政改革の観点から見直しを行っているところです。 引き続きリニューアルに向け、検討していきますが、進めるにあたっては、地元業者の方々とも連携を模索しながら進めていきたいと考えております。
6	洋酒樽プロジェクトについて、大手独占の市場への新規参入は現実的なのか。パフォーマンスで終わるなら中止すべき。	農林課	町が主体となり、民間企業や林業試験場から技術支援を受ける体制をとっている。令和 8 年度に 12 樽、令和 9 年度に 24 樽、令和 10 年度に 48 樽の製造を目指しており、既に数社から引き合いがある。
7	洋酒樽プロジェクトについて、雇用創出や経済効果がどれほど見込めるのか、シビアな視点での検証を継続してほしい。	農林課	なら枯れという資源が失われ続ける一方で、その処理にはコストがかかるという二つの損失が発生している状況。国の補助を活用しながら、実証研究をチャレンジしている事業となっている。このことから現時点では雇用創出や経済効果は見込めないが、地域おこしインターンシップの受け入れを通じて事業への参画を促し、次世代の担い手育成と地域活性化へつなげていく。